

意見1 地区防災の拠点となる公民館の整備について			
分野	自治会長からの意見	回答	担当部課
公共施設整備	<p>(1) 睦合南地区自治会連絡協議会</p> <p>■睦合南地区は洪水浸水ハザードマップで、ほぼ全域が浸水区域(0.5m~5m未満)となっている。</p> <p>令和元年の台風19号で避難指示が発令された際には、指定緊急避難場所である睦合南公民館は、あっという間に100人余りの地区住民であふれ、暴風雨の中、別の避難所へ移動してもらう事態が発生した。</p> <p>このことは、現公民館施設の狭あいやバリアフリーなどの課題に合わせて、地区人口2万人を超える避難場所としての施設の脆弱性が露呈したと捉えている。</p> <p>さらに、今般の新型コロナウイルス感染症対策のため、地区防災の拠点となる公共施設として容量不足が、大きな課題として浮上している。</p> <p>これからの睦合南地区のまちづくりを検討するに当たっては、新たな公民館の整備は、最重要事項と言っても過言ではない。特に、地区防災の拠点となる公民館の整備は、地域住民の生命を守るかどうかの問題であり、公民館整備のビジョンを示してほしい。</p>	<p>■睦合南公民館については、昭和56年に建設され築39年となり、現在再整備を進めている厚木北公民館の次に古い公民館となります。</p> <p>公共建築物の目標耐用年数は60年としているため、建物自体は約20年使用が可能ということになりますが、施設の狭あい化やバリアフリー化など、機能面での課題があることは十分に認識しています。</p> <p>また、コロナ禍における避難所については、多くの避難所を開設する必要があることから、災害発生当初から公民館と小・中学校を避難所として開設するほか、車中泊避難ができる施設として文化会館と荻野運動公園を開放する予定です。</p> <p>今後も引き続き、他の事例も参考に地元企業等の民間施設を活用させていただくなど協定等も見据え、拡充について調整を図っていきます。</p> <p>地区防災の拠点となる新たな公民館の整備については、災害時の活用も含めた施設の在り方や利用方法など、地域の皆様にとって、全体的な視点で検討する必要があるものと考えています。</p> <p>現在、令和3年度からスタートする第10次総合計画の策定を進めています。睦合南公民館については、現状や課題を踏まえ、限られた財源の中で、重要度や優先度を十分考慮しながら、位置付けについて検討していきます。</p> <p>今後については、地域からの御要望も踏まえ、市民の皆様の御意見を伺う市民参加手続を経て、今年度中に計画を策定していきます。</p> <p>＜中間報告以降の状況等＞</p> <p>■公共施設の今後の方向性を定める計画については、令和2年度中の策定を予定していましたが、市民の皆様に御理解をいただきながら、より丁寧に進めるため、策定スケジュールを見直し、令和3年中に策定することとしました。</p>	<p>【市長室】 危機管理課</p> <p>【政策部】 企画政策課、 行政経営課</p> <p>【社会教育部】 社会教育課</p>